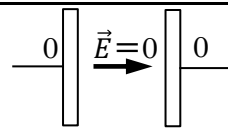
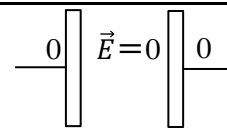


「技術者のための電磁気学入門」(1刷) 正誤表

頁	行	誤	正
3	図1.3下1行目	物理用	物理量
10	式(1.9)	$k = \frac{1}{4}$	$k = \frac{1}{4\pi\epsilon_0}$
14	図1.11内	$dE = \frac{\lambda ds}{4\pi\epsilon_0 r^2}$	$ d\vec{E} = \frac{\lambda ds}{4\pi\epsilon_0 z^2}$
23	2.1.3項1行目	式(1.9)	式(1.10)
25	6行目	直線から r 離れた...	直線から r だけ離れた...
26	6行目	..., 直線から...	..., 直線電荷から...
26	8行目	であるからことから, ...	であることから, ...
32	8行目	式(2.12)	式(2.5)
34	式(2.31)	$\dots = Q/S = \dots$	$\dots = Q/(S\epsilon_0) = \dots$
35	下から4行目	(2)	(3)
36	下から1行目	...分布している。円柱の...	...分布している。円柱中心からの距離を r として, 円柱の...
41	式(3.9)内の3箇所	\int_c^f	\int_i^c
47	式(3.29)	$V_p = \dots = -\int_\infty^r (\vec{E}_1 + \vec{E}_2 + \vec{E}_3 + \dots + \vec{E}_3) \cdot d\vec{s}$ $= -(\dots) \cdot d\vec{s}$ $= \dots$	$V_p = \dots = -\int_\infty^r (\vec{E}_1 + \vec{E}_2 + \vec{E}_3 + \dots + \vec{E}_n) \cdot d\vec{s}$ $= -(\dots)$ $= \dots$
50	式(3.38)	$dA = \dots = R dR' \int_0^{2\pi} d\theta = \dots$	$dA = \dots = R' dR' \int_0^{2\pi} d\theta = \dots$
51	下から4行目	$V(r) - V(R) = -\int_R^r E ds = \dots$	$V(r) - V(R) = -\int_R^r \vec{E} ds = \dots$
64	式(4.6)	$\dots = \vec{E} \oint_A d\vec{A} = \dots$	$\dots = \vec{E} \oint_A d\vec{A} = \dots$
71	図4.12(a)		
72	式(4.23)	式中の \vec{F} と \vec{E}	\vec{F}' \vec{E}' ダッシュ(')を付ける
73	図4.13(b)の吹き出しの中	\vec{E} 2箇所	\vec{E}_{ex}
74	下から1行目	図4.15	図4.14
81	1行目	..., 平衡状態となって電場...	..., 平衡状態となって金属内の電場...
82	式(5.1)	$\lim_{\Delta A' \rightarrow 0} \frac{\Delta q}{\Delta A}$	$\lim_{\Delta A \rightarrow 0} \frac{\Delta q}{\Delta A}$

「技術者のための電磁気学入門」(1刷) 正誤表

頁	行	誤	正
84	下から5行目	側面	底面
84	下から4行目	…の断面を示しており, 電流密度 \vec{j} は 導体側面に垂直で…	…の側面から見た断面を示しており, 電流 密度 \vec{j} は導体底面(断面)に垂直で…
85	図5.5(b)		 アミ部分を削除して <i>i</i> を追加
85	下から6行目	側面積(断面積)	底面積(断面積)
89	下から1行目	図5.9(b)	図5.11
105	12行目	…、これが5msの間に 放電されたとすると, その電力は	…、これがわずかな時間 $\Delta t = 5\text{ms}$ の間に 放電されたとすると, その電力(5.2.5項)は
105	16行目	…、これより電流 I は	…、これより電流 I は式(5.6)より
109	3行目	り, 定数 μ_0 は透磁率と…	り, 定数 μ_0 は真空中の透磁率と…
115	14行目	…の導線に電流…	…の中に置かれた導線に電流…
117	12行目	で, 7.2.2項で…	で, 7.2節で…
125	4行目	つくる磁場は, …	つくる磁場を求めることができ, …
125	12, 13行目	…につながる半直線(無限長)の導体に…	…につながる無限長の半直線の導体に…
126	1行目	…に磁場は生成しない。…	…に磁場を生成しない。…
126	4行目 右辺	$= \frac{\mu_0 i}{8\pi}$	$= \frac{\mu_0 i}{8R}$
132	図8.12(b) の中	\vec{B}_{y_0}	\vec{B}_{-y_1}
135	下から3行目	1.2.4項	1.2.3項
145	4行目	…導線ループ内の電荷(電子)の…	…導線ループ内の正電荷(電流)の…
145	5行目	… $\times B$ が働く。	… $\times \vec{B}$ が働く。
145	11行目	…計算できる(q は, 電子の電荷量)。	…計算できる($q > 0$)。
145	13行目の 式の右辺	-(マイナス): 2箇所とも削除	
145	14行目	であり, したがって, 起電力は	であり, 起電力はA→B→C→D→Aを 正の向きとし(図9.4(a)), \vec{E} はこれと 逆であるから,
146	図9.6の中	$\vec{B} \quad \Phi_B$	$\vec{B}(t) \quad \Phi_B(t)$
147	11行目	…となる(保存場ではない)。	…となる(誘導電場による力は 保存力ではない)。
148	図9.8の中	過電流	渦電流
155	【9.4】1行目	…が各速度 ω で…	…が角速度 ω で…
163	式(10.20)	$\vec{E} \quad 2\text{箇所}$	\vec{B}
164	下から7行目	を波動法定式(…	を波動方程式(…
190	【2.2】4行目	$ \vec{E} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q}{R^3} r$	$ \vec{E} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q}{R^3} r$
191	【5.2】	$= 0.073\text{mm/s}$	$= 0.074\text{mm/s}$